

第40回名古屋国際木工機械展

木材加工技術分野で日本最大の木機展・名古屋は4日間で1万2千人あまりを動員し11月5日に会期を終了した。木機展・名古屋(名古屋国際木工機械展/ウッドエコテック)は1952年(昭和27年)の初開催から数えて40回目、60年に近い歴史をもつ木材加工技術の産業専門見本市。愛知県名古屋市港区金城ふ頭のポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)の3号館と隣接した屋外を展示スペースとして木工機械と関連設備・機器・ソフトなど木材加工技術の製造・販売に携わる130社が543小間の規模でブースを出展し、抜本的な転換期に臨む日本の木材産業、木材加工産業に木材加工技術の最前線を伝えた(前回は127社・532小間)。出品内容を国別に見ると、アジアからは日本の121社を別にして、台湾8社、中国3社、インドネシア2社、シンガポール2社、インド1社、マレーシア1社、オセアニアからはオーストラリア1社、アメリカからは米国4社、ヨーロッパからはドイツ24社、イタリア12社、オーストリア4社、スペイン2社、スイス1社、スウェーデン1社、デンマーク1社、フランス1社、ベルギー1社、ルクセンブルグ1社で、世界18ヵ国・地域に及ぶ。

